



《バーゴとミネ》2001 作家蔵

のタマが横尾さんの看病のおかげで元気になった際に世田谷区から授与されたもの。動画は事務所で飼っているネコの3姉妹が仲良く同じ動きをする動画です。3階の展示室に広がるサバンナの景色と緑色の壁も横尾さんの提案です。動物というテーマに合わせて、展示室内にサバンナを出現させる

という大胆な発想はさすがです。壁も展示会ポスターに合わせた3種類の緑色を用いることで雰囲気がガラッと変わりました。このアイデアを伺った時には、実際にどんな風になるのか全く想像出来ず、不安でドキドキでした。しかし、いざ壁を緑色に塗り、サバンナの写真を貼り、作品を展示してみるとこれがなかなか爽やかで作品とマッチしています。展示のチェックに訪れた横尾さんも「ほら、僕の言った通りでしょ。緑も1色だけじゃなくて3色に分けたから圧迫感もなくていいよね。」とご満悦の様子。今までの当館の展示室をご存知の方も、この変わり様には驚かれたのではないのでしょうか。

今回の展示会の目玉の一つ、神戸市立王子動物園からナビゲーターとしてやって来てくれた剥製も見逃せません。動物園の協力のもと、過去に動物園で飼育されていた動物の剥製を14体もお借りすることが出来ました。普段あまり見る機会が無い剥製に大人も子どもも興味津々でした。アカカンガルやニホンカモシカ、インドタテガミヤマアランと一緒に作品を見ていると、何とも不思議な気分になりました。

ここでも横尾さんによる遊び心が。《玄》に描かれたペンギンをオウサマペンギンが見ている設定で、作品と向かい合うように数メートル先に剥製を設置したのですが、それを見た横尾さんの手により作品の真ん前



横尾作品とオウサマペンギンによるインスタレーション



《白浜一喜びも悲しみも幾年月》2006 作家蔵

に置かれることになりました。「この方が作品と剥製のインスタレーションになって面白いよ。ペンギンが作品を見ているって伝わるよ。」とのこと。今回の展示会ならではのインスタレーションに、お客様からの評判も上々でした。

本展では、展示会の内容だけでなく色んなところに子どもに楽しんでもらえるような工夫をしました。作品解説はなるべく易しいものにし、作品のエピソードや鑑賞の補助になるような一言を添えたところ、親子で読んで下さる微笑ましい姿が見られました。1階オープンスタジオの工作コーナーでは、お父さんに手伝ってもらったり、おばあちゃんにアドバイスしてもらいながら動物を作る子どもたちがたくさんいました。美術館の色んなところで大人と子どもと一緒に楽しむ姿を見ることができました。

子ども向けのプログラムがまだまだ少ない当館ですが、今後も美術館に来る面白さや作品を見ることの楽しさを伝えていける展示会を、毎年夏に開催する予定です。今後も当館の展示会にご注目ください!



作品について語る横尾さん

Information 次回展関連イベント

横尾忠則 肖像図鑑 HUMAN ICONS

2013年9月28日(土) - 2014年1月5日(日)

休館日: 9月30日(月)、12月2日(月)、12月9日(月)、12月16日(月)、12月24日(火)、年末年始(12月30日(月)-1月1日(水))
観覧料: 一般600(480)円、大学生450(360)円、高校生・65歳以上300(240)円、中学生以下無料
※()内は前売料金および20名以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売なし)
※隣がいのある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)
※神戸ビエンナーレ2013の会期中(10月1日(火)-12月1日(日))については、高校生・隣がいのある方とその介護の方(1名)は無料でご覧いただけます

開館1周年記念

対談 横尾忠則×瀬戸内寂庵

11月2日(土) 14:00-

会場: 当館 オープンスタジオ

※聴講無料

みんなでつくる大きな肖像

一筆写して、つなげる

講師: 当館スタッフ

11月23日(土・祝) 13:00-

会場: 当館 オープンスタジオ

対象: 小学校4年生以上

(一般の方の参加も可)

定員: 25名程度

※参加費無料・要予約

細野晴臣ライブ

出演: 細野晴臣 ほか

12月1日(日) 19:00-

会場: 当館 オープンスタジオ

※有料・要予約

キュレーターズ・トーク

講師: 当館学芸員

10月12日(土)、11月16日(土)、12月14日(土)

14:00-14:45

会場: 当館 オープンスタジオ

※聴講無料(100席・当日先着順)

定員: 25名程度

※各イベントの詳細はHPなどでご確認ください

兵庫県立美術館 | 展示会スケジュール

特別展 | 生誕130年 橋本関雪展 | 9月14日(土)-10月20日(日)

昭和モダン 絵画と文学1926-1936 | 11月2日(土)-12月29日(日)

コレクション展 | 新収蔵品紹介 信濃橋画廊コレクションを中心に

7月6日(土)-11月10日(日)

美術の中のかたち 一手で見る造形

近いかたち、遠いかたち 一岡晋司・重松あゆみ・中西学一

コレクション名品選 美術の始まる場所(仮題) 奥田善巳展

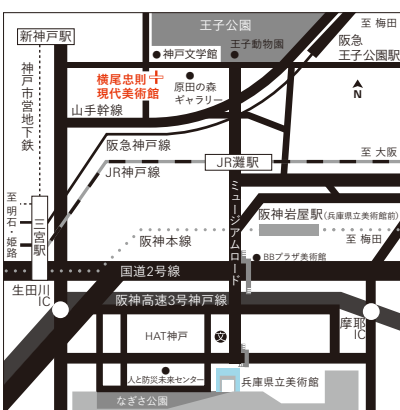
11月23日(土・祝)-2014年3月9日(日)

神戸ビエンナーレ2013 | 横尾忠則 感応する風景 | 10月1日(火)-12月1日(日)

※兵庫県立美術館の特別展又はコレクション展の有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)
※横尾忠則現代美術館の企画展のチケット半券をご提示いただくと、兵庫県立美術館の特別展、コレクション展および「神戸ビエンナーレ2013 横尾忠則 感応する風景」が団体割引でご覧いただけます

編集後記

今回の展示会は子ども向けのイベントも多く、美術館の至るところで子どもの元気な声が聞こえていました。また、王子動物園とのコラボレーションで実現した剥製たちの展示には子どもよりも大人が興奮している様子でした。次の美術館ニュースもお楽しみに! (本庄)



Y+T MOCA

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888

www.ytmoqa.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.3

2013年9月20日発行

編集・発行: 横尾忠則現代美術館 印刷: 株式会社 大伴社

Topics 豊島横尾館が開館しました!



中庭に一歩足を踏み入れると、横尾さんならではの色彩の世界が広がります



滝のポストカードによるインスタレーション

底なしの空間に吸い込まれそうです

ただ単に横尾さんの絵が展示されているだけではなく、あっと驚くような仕掛けがいろいろと施されています。例えば先ほどのタワーの中に入ると、周囲は無数の滝のポストカードの写真でびっしりと埋め尽くされ、床と天井(高さ14メートル)は合わせ鏡になっていて、底なしの空間に吸い込まれそうになるのです。鏡の効果といえば、「横尾式便所」と名付けられたトイレも作品の一部です。当館の開館記念展「反反復反復」のモザイクの小屋から着想したユニークな空間となっていますので、ぜひお見逃しなく!

山本淳夫 | 本館学芸課長

the Y+T Times

横尾忠則現代美術館ニュース

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art NEWS LETTER



Special Report “横尾忠則どうぶつ図鑑 YOKOO'S YOKOO ZOO”

Content Report

- 01 記念アーティストトーク
- 02 作ろう! みんなの YOKOO ZOO
- 03 横尾忠則公開制作
- 04 描いてみよう! ぼく・わたしの好きな動物

Preview

横尾忠則 肖像図鑑
HUMAN ICONS

Column

Y字路ハンター、横尾さん

Editors' Choice

MUSEUM SHOP・建築案内

Information

次回展関連イベント

兵庫県立美術館

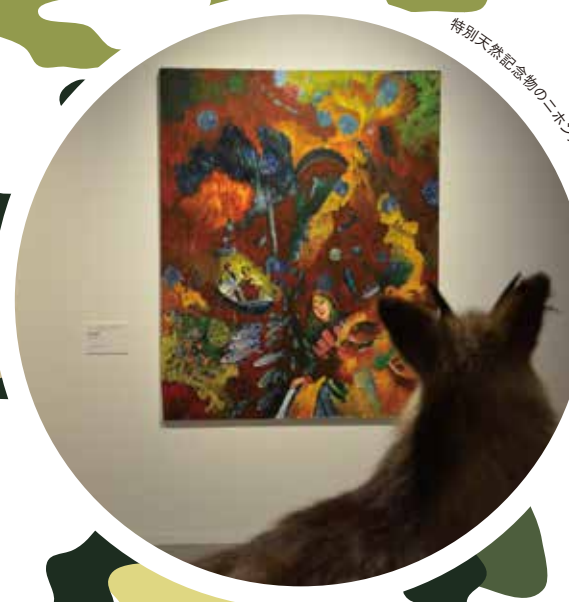
展示会スケジュール

Special Report “横尾忠則どうぶつ図鑑”

YOKOO'S YOKOO ZOO



エレベーターが開くとお出迎えしてはいるカウライズ 約2.5mの高さの動物たち



特別天然記念物のニホンカモシカを模したカモシカ

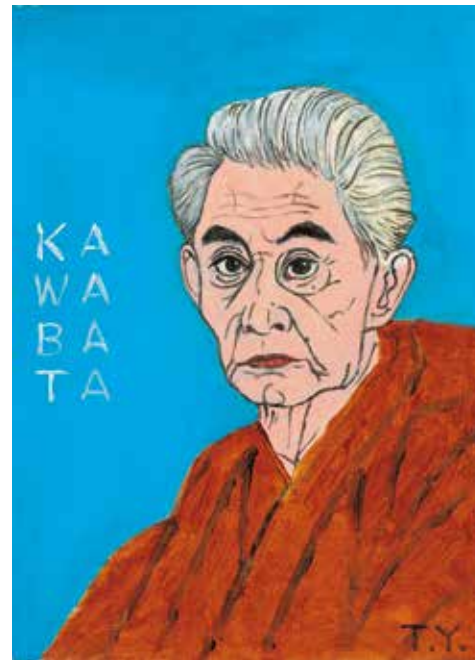
「横尾忠則どうぶつ図鑑 YOKOO'S YOKOO ZOO」は、当館で初めての試みとなる子ども向けの展示会です。作品に描かれた動物に焦点を当て、「森・草原のどうぶつ」「水のなかのいきもの」など8つのテーマに分けて横尾さんの動物表現を紹介しました。例えば、作品に頻繁に登場するネコ。それらのネコのほとんどは飼猫がモデルになっています。日記には飼猫とのエピソードもたくさん残っており、愛猫家ぶりがよく分かります。それと同時に、ネコに対して「如何なる状況でも遊びを忘れず、自己に忠実なネコは芸術家の見本。芸術家も自分の思うがままに忠実に生きるべきだ。」と横尾さんも語っています。型に捕われない自由な作品を生み出すスタイルはネコの生き方そのものです。

ネコと同じくらいよく作品に登場するライオンは、少年時代の愛読書『パルーバの冒険』に登場する、主人公の相棒の片眼の金獅子を引用したものです。横尾さんが描くライオンが片眼であるのもそのためです。ライオンは横尾さんが今だに持ちつづけている少年の心の表れと言えます。同時に、ライオンと同義の獅子は横尾さんの奥様の星座です。生涯のパートナーである奥様と『パルーバの冒険』を重ねあわせ、象徴的に描いているのです。このように、描かれた動物には横尾さんのメッセージや、色んなエピソードが詰まっています。横尾さんは「意識して動物を描いているわけではない。それなのに、こんなにたくさん動物を描いていたことに驚いた。」と言われていましたが、その想いを知らず知らず動物たちが代弁してくれていたのかもしれない。

展示室には遊び心がたくさん詰まっています。例えば、ネコやイヌを紹介した「身近などうぶつ」のコーナーに展示された表彰状やネコの動画は横尾さん発案によるものです。表彰状は飼猫

Preview 横尾忠則 肖像図鑑 HUMAN ICONS

2013年9月28日(土)~2014年1月5日(日)



川端康成 2007 | 作家蔵

俳優、作家、ミュージシャンなど、時代を彩る様々なスターたちを描いてきた横尾忠則。横尾による多彩なポートレイトの数々は、その華やかな交流の一端を垣間見せてくれます。横尾は彼らを作品として描き出すと同時に、その多くとプライベートな関係を築いてきました。描かれた人物の大半は、写真や絵画など既存のイメージの流用あるいは模写でありながら、そこに横尾自身のイマジネーションや私的な物語が加わることで、人物は特異なアイコンに昇華されていると言えるでしょう。

本展では、様々なメディアを横断した膨大な仕事の中から、1960年代から今日に至るまでのポートレイト作品に焦点を当て、絵画を中心に、イラストレーション、デザイン原画、ポスター、版画など、約590点を展示します(展示替えを含む)。みどころは、数年来制作が続けられてきた最新作、日本近代作家の肖像シリーズ222点と、その制作の契機となった瀬戸内寂聴『奇縁まんだら』の挿画。これら全点が一堂に会するのは、本展が初となります。この機会にぜひご覧ください。

林優 | 本館学芸員

Column Y字路ハンター、横尾さん



「信号赤ですよ」「だいたいようぶ、今までひかれたことないから」



「うーん、思ってたよりイマイチなY字路かな……」

「ぼんだかふえ」で昼食をとっていたら、横尾さんが突然いい出しました。「おとつ青谷のあたりをタクシーで通ったとき、すこいY字路があったんだけど。ちょっとみに行かない?」というわけで、急きょY字路探索に出かけることに。現場は美術館から真北に少し行ったあたりで、約50年前に新婚の横尾さんご夫妻が住んでいた場所の近くです。ところがよく考えると、Y字路の写真を撮ろうとすると、どうしても車道のど真ん中でシャッターを切ることになります。車がビュンビュン走ってきても、横尾さんはまるで構いなし。「先生、あぶない!」「だいたいようぶ、だいたいようぶ。今までひかれたことないから」。横尾さんをかばいながら(そしてドライバーさんに謝りながら)、おなじ目線で景色をみると、建物の佇まいや、横断歩道のストライプがすこくかっこいいことに改めて気づかされます。……それよりもなによりも、最大の発見は、「Y字路ハンティングは命がけ」ということなのです。

山本淳夫 | 本館学芸課長

EVENT REPORT 01

記念アーティストトーク “YOKOO'S YOKOO ZOO”

2013年7月13日(土)14:00~ | 当館 オープンスタジオ(1F)



切り抜いた絵本のページを説明する横尾さん



横尾さんと穂村さん 仲の良さが伝わってきます



絵本にまつわるエピソードをお話する穂村さん

当館の人気イベントであるアーティストトークは、毎回横尾さんと展覧会担当者が展覧会にまつわるエピソードや作品についてお話するイベントです。しかし、今回は展覧会に併せて刊行された『えほん・どうぶつ図鑑』の文を執筆された歌人の穂村弘さんをゲストに迎え、いつもより豪華なアーティストトークとなりました。普段から親交のあるおふたりのトークは終始和やかなムードで進行しました。

まずは、『えほん・どうぶつ図鑑』の説明をする横尾さん。読者が絵本を切り抜くことで完成する参加型絵本の魅力に、お客様も興味津々の様子でした。ページを切り抜くことで予想外のビジョンが生まれる絵本には、常に常識を打ち破る横尾さんらしさが溢れています。

穂村さんは、文章を依頼された時の喜びや、「愛し合う夢をみました。」という最初の一文を思いついた時のエピソードなどをお話して下さり、絵本にかける熱い想いが伝わってきました。

絵本の話だけでなく、横尾さんの制作の秘密に迫る話や、絵と言葉という別々のツールを使って表現することについて、普段のアーティストトークでは聞けない話が盛り沢山の、スペシャルバージョンになりました。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 02

作ろう! みんなの YOKOO ZOO

会期中随時 | 当館 オープンスタジオ(1F)



一生懸命作っています



色とりどりのいろんな動物が並んでいます

今回、オープンスタジオでは展覧会のテーマに合わせて、動物を工作するワークショップコーナーを作りました。ペットボトルのキャップやお菓子の箱、魚のトレイなど生活のなかの廃材を好きなように用いて工作してもらい、工作動物園を美術館に出現させる随時参加可能なコーナーです。子どもだけでなく大人も参加し、様々な形と色で YOKOO ZOO は日に日に賑やかになっていきました。大人が思いつかない方法で子どもが作った作品を見て、大人たちは「こんな発想が出来るなんてすごい!」と驚き、大人が作った凝った作品に子どもは「どうやって作ったんだろう? すごく上手!」と感嘆の声を上げていました。

色んな材料で動物が出来上がっていく様子を間近で見て、その動物を見ているお客様の声を聞き、私自身が毎日ワクワクできた企画になりました。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 03

横尾忠則公開制作

2013年7月14日(日)15:00~ | 当館 オープンスタジオ(1F)



フリーハンドで文字を書いていく横尾さん

展覧会オープンまであと数日というところに、横尾さんから「展覧会初日の次の日に、公開制作をしようと思う。」とのお電話がありました。まったく予想外の事態に館内は大慌て。早速公開制作の告知や準備を行いました。事前の広報の少なさにも関わらず、当日は立ち見が出るほど多くのお客様が集まりました。

三島由紀夫と三島瑠が描かれた作品に、「I'M RUNNING OUT OF TIME」(私にはもう時間が無い)と書き込んだ横尾さん。この言葉は、三島さんが亡くなる前に電話で交わした言葉と、横尾さん自身の想いとが反映されているようです。

下書きなしにも関わらず、それぞれの文字の形や間隔は実に正確です。デザイナー時代に鍛えたレタリング力はまだまだ健在であると実感させられる公開制作となりました。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 04

描いてみよう! ぼく・わたしの好きな動物

2013年7月30日(土) 10:00~ | 当館展示室、神戸市立王子動物園



暑いのも気にせず集中して絵を描いています



横尾さん流に紙皿をパレットに

神戸市立王子動物園で動物を写生する「描いてみよう! ぼく・わたしの好きな動物」を行いました。小学生を中心とした6歳~30歳までの28名が参加しました。

動物園に行く前に、まず展示室で横尾さんの作品を見ました。美術館に来るのが初めてという子どもがほとんどでしたが、絵を見て面白いところや不思議なところなど色んな感想を話しあいました。人生初の横尾作品は

果たしてどんな風に目に映ったのでしょうか。動物園に着くと、それぞれのお目当ての動物に一目散。コアラやレッサーパンダなど可愛い動物が人気でした。今回のイベントでは、横尾さん流に紙皿をパレット代わりに使いました。学校で使用するようなパレットではないので、戸惑わないか心配でしたが、みんな上手に使いこなしていました。初めて絵の具を使う子どももいましたが、お母さんやスタッフにアドバイスを受けながらの挑戦です。「キリンの模様をよく見てごらん? どんな形になっている?」「トラの尻尾の先はどんな色?」など付き添いのお母さんやおばあちゃんと一緒に話しながらかきあげた作品からは、どのように動物を観察しているのかがよく分かります。写生することによっていつもよりじっくり動物を観察し、気付いた点がたくさんあったのではないのでしょうか。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

Editors' Choice MUSEUM SHOP・建築案内

MUSEUM SHOP 定休日: 休館日に同じ Tel 078 855 5697



横尾忠則現代美術館オリジナルマグカップ マグカップ内側にも遊び心が……



まるで辞書のような『横尾忠則 全装幀集』

横尾さんをイメージさせる唇

今回のオススメは横尾忠則現代美術館オリジナルマグカップです。作品《農道時間》などにも登場する骸骨がマグカップの外側だけでなく内側にも散りばめられています。横尾さんは「これがね、蟻みたに見えるんだよ。痩せられるマグカップだね。」とご満悦でした。次にオススメなのは、『横尾忠則 全装幀集』です。1957年から現在まで、55年に渡る装幀の仕事約900点が収録されています。まるで辞書のような厚みで圧倒されます。白いカバーに黒い文字とシンプルですが、カバーをめくると本体表紙は真っ赤で、横尾さんをイメージさせる唇が型押しされています。ご来館の際はぜひお手に取ってご覧ください。

本庄洋子 | 本館学芸員補助

建築案内 建築家編 1982年竣工・2012年改修



美術館外壁から柱へと続く柔らかなライン



上下シンメトリーな柱の形

当館は建築家・村野藤吾と兵庫県都市住宅部宮繕課によって設計された兵庫県立美術館王子分館(旧兵庫県立近代美術館)の西館をリニューアルしています。村野藤吾(1891年~1984年)はそごう大阪店や大阪新歌舞伎座など関西に多くの作品を残した建築家です。村野建築の面白さは、白い仕上げと水平垂直(すた)を謳うモダニズムの時代に、あえて歴史様式の表現(味わい深い仕上げと細部表現の豊かさなど)を大切にしたいところにあります。例えば当館では外壁から柱につながる柔らかなラインや、上下のシンメトリーな柱の形にも村野らしさが表れています。ご来館の際はぜひ建築という視点からも美術館をお楽しみ下さい!

本庄洋子 | 本館学芸員補助